

## [資料] マルクス没後100年, ケインズ, シュムペーター生誕100年 記念行事・出版物(国内)目録

著者	関西大学経商資料室
雑誌名	関西大学経済論集
巻号	34 3
ページ	403-453
発行年	1984-07-25
その他のタイトル	[Material] Bibliography of the Articles and Other Works Relating to the Centenary of Marx, Keynes, and Schumpeter
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10112/14730">http://hdl.handle.net/10112/14730</a>

# マルクス没後100年, ケインズ, シュムペーター 生誕100年 記念行事・出版物(国内) 目録

経商資料室

## はしがき

当目録の編纂にあたっては、次のとおりの構成をもつてした。(ただし該当記事がない場合は、これを省略)

### I マルクス, ケインズ, シュムペーターの部

#### 1 記念講演〔会〕(1), (3)はABC順, 同一機関内は1)–3)とも開催日順)

- 1) 協議会, 学会
- 2) 大学(地区別<北海道→九州>順)
- 3) その他

#### 2 記念展示会

(1とおなじ)

#### 3 出版物(各項内ABC順配列)

- 1) 単行書
- 2) 雑誌
  - i 特集号
  - ii 個別記事
  - iii 書評・文化・紹介欄(著者性のないもの, あるものはiiへ)
- 3) 新聞
  - i 特集記事
  - ii 個別記事
  - iii 書評・文化・紹介欄(著者性のないもの, あるものはiiへ)

#### 4) 目録

#### 5) パンフレットその他

### II マルクス, ケインズの部 (注——マルクス, シュムペーターの部は該当なし)

#### 1–3 (上記Iとおなじ)

## Ⅲ マルクスの部

1-3（上記Ⅰ，Ⅱとおなじ）

## Ⅳ ケインズ，シュムペーターの部

1-3（上記Ⅰ-Ⅲとおなじ）

## Ⅴ ケインズの部

1-3（上記Ⅰ-Ⅳとおなじ）

## Ⅵ シュムペーターの部

1-3（上記Ⅰ-Ⅴとおなじ）

## 人名索引

以上について、全体が相当多ページにわたるので、これを3回に分載することとし、第1回目は、Ⅲマルクスの部、3の1）「単行書」までを掲載することとした。

次に当目録について若干付言させて戴く。

マルクス没後、ケインズ、シュムペーター生誕百年に当たる1983年は、年初に予期したとおり、該当行事および出版が多く行われた年であった。取分けマルクスについては、殆ど日々目を離すことが出来ないほどの数量に及んだ。そこで懸念を懐いたのは、これらの情報の収録についてどこまで遺漏なく迫ることが出来るかという点であるが、その不偏的収集の困難を予想して、前以って採録範囲外とした地方新聞、諸大学内新聞記事等（若干の例外はあるが）を別にしても、結果としてなお多くの脱落があることを懼れるものである。

さらに問題であるのは、収録情報における百周年記念性の本質的有無の基準である。一見して記念特集とされてあるものは問題ないが、簡単な没後乃至生誕百年の文言の有無をもってする判断が必ずしも妥当でないとも思われ、次のように設けた基準、すなわち

- 1) 単行書については、年間刊行物目録化を避けないで努めて採録（ただし略記述を含む）

注——1) 対象は原則として1983年1月以降原稿作成現在（1984年5月1日）までの出版書（新刊および改訂出版）

- 2) 新聞・雑誌等の広告に「マルクス没後（或はケインズ、シュムペーター生誕）百年」と表示してあっても、1982年12月以前出版のものは原則として対象外

- 2) 雑誌記事においては、i) 一般雑誌については上記1)の方針に近いが、ii) 大学関

係論集・紀要類については、文言のないものはこれを省略としたのは、結果において多分の不整合を免れず、何卒利用者各位のご容赦をお願いしたい。

おわりに、当目録編纂の始終において、鄭重なご教示を戴いた甲南大学杉原四郎先生、本学重田晃一先生をはじめとする経済・商学部諸先生、また当方の照会に対し懇切なご回答をお寄せ下さった国会図書館並びに全国諸大学関係者諸氏に厚く御礼申し上げます。

(平松系一郎・記)

〔追記〕 上記のように当目録は3回に分載され、マルクスの場合、「記念講演〔会〕と並んで主要部分というべき「雑誌―特集号」の項目が次号掲載になるが、その中に没後百年記念の動向を展望出来る諸論述が見出されるので、その主なものをここに挙げさせて戴く。

- 天野恵一：「マルクス没後百年」をめぐる思想状況——思想を自己との格闘の場でとらえる作業を！ 新地平（105）80-88
- 江尻 彰、竹味能成：「マルクス没後百年」をめぐる他誌の動向 経済科学通信（39）97-100
- 長久理嗣： マルクス没後百年をめぐる動向 季刊・科学と思想（50）106-113（当論述は「雑誌―個別記事」）
- 重田晃一： 新聞、諸雑誌よりみたマルクス没後100年記念の動向 書評（関西大学生生活協同組合）（68）28-48
- 鷲田小彌太： マルクス死後百年をめぐる特集雑誌の論調紹介と若干の論評——マルクス主義の危機 季報・唯物論研究（大阪唯物論研究会）（10/11）25-30

注——当鷲田論述は、同氏著「書解・現代マルクス主義」にも掲載されている、当第1回分に採録

- いいだもも： 百年忌に因む「カール・マルクス問題」群像 現代の眼 24（4）56-67

注——当いいだ論述は、同氏および伊藤 誠編「いまマルクスを問う」に若干の加筆および表記を変えて掲載、当第1回分に採録

なおこれらの論述は関係諸資料に包括的に触れているので、当目録の「関係記事」欄に挙げることを略させて戴いた。

## I マルクス、ケインズ、シュムペーターの部

## 1 記念講演〔会〕

## 1) 協議会・学会

## 経済社会学会

第19回大会 於近畿大学本館 1983.11.19-20

注——以下マルクス、ケインズ、シュムペーターにかんするもののみを挙げた

第1日 11.19

マルクスの経済社会学〔特別報告〕 早瀬利雄(帝京大), &lt;司会&gt;吉田昇三(近畿大)

第2日 11.20 総会

資本主義の運命——マルクス没後、高田保馬、ケインズ、シュンペーター生誕後100年にちなむその経済社会学的考察〔共通論題〕 &lt;司会&gt;早瀬利雄(帝京大), 内海洋一(大阪学院大)

1) 高田保馬における資本主義の運命の社会学的考察 向井利昌(神戸大); 討論者: 内海洋一(大阪学院大)

注——高田保馬にかんするものであるが、共通論題の一として上記注にかかわらず採録

2) ケインズ、シュンペーター、そして未来 東條隆進(下関市立大), 討論者: 鉢野正樹(北陸大)

3) 経営資本主義と民主社会主義——マルクスとシュンペーターの所説を発展させて 青沼吉松(慶応大), 討論者: 早瀬利雄(帝京大)

4) シュンペーターと資本主義の未来 大野忠男(追手門学院大), 討論者: 吉田昇三(近畿大)

## 理論・計量経済学会

1983年度大会 於上智大学 1983.10.9-10.10

注——以下マルクス、ケインズ、シュムペーターにかんするもののみを挙げた

第2日 10.10 午前の部 於第6会場

マルクス、シュンペーター、ケインズの経済学と現代 &lt;司会&gt;青山秀夫(摂南大)

価値・価格理論における産出量 荒木勝啓（駒沢大），討論者：松本有一（関西学院大）

利潤率均等化命題について 黒木龍三（京大），討論者：藤本喬雄（香川大）  
 シュンペーターの企業者論の特異性 池本正純（専修大），討論者：中村達也（千葉大）

ケインズ経済学の本質と現代的評価 加藤寛孝（創価大），討論者：藤野正三郎（一橋大）

同 午後の部 於第1会場

テーマ： マルクス，シュンペーター，ケインズの経済学と現代（パネル・ディスカッション） <司会>安井琢磨（国際基督教大）

報告者： マルクス 塩沢由典（大阪市大）  
 シュンペーター 塩野谷祐一（一橋大）  
 ケインズ 藪下史郎（横浜国立大）

討論者： マルクス 置塩信雄（神戸大）  
 シュンペーター 伊達邦春（早稲田大）  
 ケインズ 福岡正夫（慶応大）

〔関係記事〕経済セミナー（347）（A）

## 2) 大学

### 日本大学

マルクス没後百年，ケインズ，シュンペーター生誕百年記念講演会 同大学経済学部経済学研究会 於同大学同学部 1983.10.24—11.1

- 1) 「マルクス没後100年間の経済学」 関 恒義（一橋大） 10.24
- 2) 「シュンペーターの経済学」 金指 基（日本大） 10.31
- 3) 「ケインズ経済学と現代」 福岡正夫（慶応大） 11.1

### 東京経済大学

〔マルクス没後100年，ケインズ，シュンペーター生誕100年記念展示会にともなう〕講演会 於同大学図書館 1983.12.3

資本論出版ミステリー100年史 江夏美千穂（東京経済大）

注——1) 上記のとおり演題はマルクスであるが、講演会は三者の記念展示会にともなって開催されたものであるので当部に収録

2) マルクス、ケインズ、シュムペーターの部「記念展示会」参照

3) 同上の部「目録」参照

〔関係記事〕東京経済大学学報 16(6) (江夏美千穂)

#### 阪南大学

公開講演会，第2部： マルクス没後100年・ケインズとシュムペーター生誕100年記念  
同大学産業経済研究所 於同大学経済学部学舎 1983.11.25

ケインズ経済学の現代的意義 宇沢弘文（東京大）

注——上記のように、演題はケインズであるが、講演会そのものは、三者記念と銘打っているので当部に収録

#### 関西大学

マルクス没後100年，ケインズ，シュムペーター生誕100年記念講演会 同大学経済学会  
於同大学第2（経商）学舎 1983.10.6

「シュムペーターとケインズ」について 橋本昭一（関西大）

「マルクスと現代」について 森岡孝二（関西大）

注——当学会による当記念講演会は、同日夜同大学二部天六学舎においても同一内容のものが開催された

#### 熊本商科大学

学術講演会 同大学学生商経学会 於同大学 1983.6.1

経済学とは何だろうか 佐和隆光（京都大）

#### 2 記念展示会

##### 2) 大学

#### 日本大学

マルクス没後百年〔、〕ケインズ，シュンペータ〔ママ〕生誕百年記念展示〔会〕  
於同大学経済学部図書館 1983.10.24—11.5

注——当展示会の展示目録有り，マルクス，ケインズ，シュムペーターの部「目録」参照

### 東京経済大学

マルクス没後100年〔、〕ケインズ，シュムペーター生誕100年記念展示会 於同大学図書館 1983.11.21—12.3

注——1) 当展示会は当初11月26日までであったが，1週間日延べしたもの，主な展示物は次のとおり。

- i 展示図書——原書，訳書約150点
- ii マルクス，ケインズ，シュムペーターの肖像パネル
- iii 経済学の系譜パネル
- iv 中国で本1983年5月発行の記念切手，封筒(当東京経済大教員提供)
- v 「資本論」初版——貴重書扱いのためガラス展示ケースに入れて展示

- 2) 当展示会の展示目録有り，マルクス，ケインズ，シュムペーターの部「目録」参照
- 3) 当展示会にともなう江夏美千穂氏の講演会有り，マルクス，ケインズ，シュムペーターの部「記念講演〔会〕」参照

### 3 出版物

#### 1) 単行書

#### 日本経済新聞社編

資本主義 1983——経済学・巨人たちの百年 東京 日本経済新聞社 (1983.6.23)

¥1,200

226<内，まえがき〔1-2〕，目次〔3-8〕，本文〔9-226〕>p 19cm

注——1) 執筆者は次の6名

三橋規宏(東京本社経済解説部次長)，鈴木正俊，岡田任弘(同部)，秋山豊(東京経済部)，内田茂男(大阪証券部次長)，市岡揚一郎(ワシントン支局長)並びに村瀬満男(ロンドン支局長)<協力>

- 2) 日本経済新聞紙上に，1983.2.21—3.11にかけて15回シリーズの連載



企画「経済学・巨人たちの百年」として掲載したものを、さらにやさしく、くわしく書き改めたもの、と「まえがき」にあり

- 3) 上記2)のアイテム： マルクス、ケインズ、シュムペーターの部「新聞—特集記事」参照

〔関係記事〕朝日新聞 (1983.8.9), 関学ジャーナル (1983.9.21), 経済往来35(9) (丸尾直美), 日本経済新聞 (1983.7.24) (金森久雄), 週刊読書人 (1983.8.8) (加藤 寛), 読売新聞 (1983.8.1)

### 都留重人

体制変革の政治経済学 東京 新評論 (1983.4.25) ¥1,200

195<内, まえがき [1-3], 目次 [5-8], 本文 [9-166], 付論 [167-172], 書評: 近著に見る体制変革論 [173-195]>p 19cm

注—1) 上記付論: 「経済学の三巨星の百年祭に思う」(朝日新聞 <1983.2.6>)に初出のもの, ただし表記若干の相違有り, マルクス, ケインズ, シュムペーターの部「新聞—個別記事」参照

- 2) 本書の内容は, 3者の内ではマルクス, シュムペーターに関連するものであるが, 上記1)のごとき「付論」を含んでいるので当部に収録した  
〔関係記事〕週刊読書人 (1983.7.11) (中村達也), 図書新聞 (1983.6.11) (中島誠), 同 (1983.8.13) (淡中剛郎)

### 山口正之

危機の時代の経済学 (新日本新書324) 東京 新日本出版社 (1983.6.30) ¥540

198<内, まえがき (著者) [3-6], 目次 [7-9], 本文 [11-195], おわりに—経済学を超えて—科学的社会主義への道 [197-198] >p 17cm

注—「まえがき」に, マルクス没後, ケインズ, シュムペーター生誕百年について

の文言有り  
〔関係記事〕赤旗 (1983.7.11) (坂井昭夫), 経済 (232) (米田康彦)

- 2) 雑誌

i 特集号

エコノミスト(毎日新聞社) 61(14-16) <w. no. 2508-10> (1983.4.5-19)

注——以下は当誌の各1部分

経済学の三巨星(短期集中連載) 上・中・下

上 J. M. ケインズ (4.5)

[1] 現代資本主義とケインズ——本来の学説に基づく新政策の作成は可能 宇沢  
弘文 124-133

[2] ケインズの人と業績 間宮陽介 134-135

中 カール・マルクス (4.12)

[1] マルクス経済学と三つの現代——現実の解明をどう進めるか 馬場宏二  
52-59

[2] マルクスの人と業績 関矢礼二 60-61

下 J. A. シュムペーター (4.19)

[1] シュムペーターと現代世界——いまに生きる壮大なビジョン 篠原三代平  
54-62

[2] シュムペーターの人と業績 碓井 彊 63-64

[関係記事] 毎日新聞(1983.3.14), 日本読書新聞(1983.1.24)

経済セミナー(337)(1983.2.1)

注——以下は当誌の1部分

特集・マルクス, ケインズ, シュムペーター

この百年の経済思想 竹内靖雄 8-14

出発点としてのマルクス 佐伯啓思 15-21

ケインズの時間意識をめぐって 佐藤 光 22-28

シュムペーター ——遅れてきたマルクス 岩井克人 29-36

注——1) 当号の表紙には、「マルクス・ケインズ・シュムペーター」の表示あり

2) 当号「編集部から」欄(p.138)をも参照のこと

大阪経済法科大学経済研究所研究年報(3)(1984.3.15)

注——以下は本誌の1部分

特集<マルクス没後百年, ケインズ, シュムペーター生誕百年記念>(その一)

特集にあたって 林 直道 1-21

ケインズと現代帝国主義——ベルサイユからブレトンウッズまで 山口正之 3-26  
 シュムペーター経済学の理論的性格——資本主義の運命にかんする所説を中心に 小  
 谷義次 27-38

## ii 個別記事

## 〔A〕

マルクス、ケインズ、シュムペーターの経済学と現代——ルポ／理論・計量経済学会  
 1983年度大会 経済セミナー (347) 70-71 (1983.12.1)

注——Aは、当記事の末尾の表示、当該編集部にお問い合わせしたところ、とくに匿名のままにして欲しい、との回答あり、なお、当語末尾の「編集部から」の記事 (p. 134) も参照のこと。当大会は「記念講演〔会〕」参照

小池基之、竹内靖雄、早坂 忠、福岡正夫

マルクス、ケインズ、シュムペーター——資本主義の将来〔座談会〕 丸山 徹<司  
 会> 三田評論 (835) 4-21 (1983.4.1)

丸尾直美

日本経済新聞社「資本主義 1983」〔書評〕 経済往来 35 (9) 178-179 (1983.9.1)

松嶋敦茂

経済学史の効用 彦根論叢ガイドンス特集 (5) 11-20 (1983.4.1)

注——マルクス没後百年、ケインズ、シュムペーター生誕百年についての文有り  
 り

岡田純一

続・古典まえがき集——「まえがき」でたどる経済学の古典 経済セミナー (343) 41-  
 51 (1983.8.1)

注——マルクスからシュムペーターまで、「まえがき」でたどる経済学の古典、  
 と表紙にあり

内容：

- [1] マルクス：『経済学批判』の「序言」並びに『資本論』の「序文」および「後記」 41-45
- [2] ケインズ：『雇用、利子および貨幣の一般理論』（初版）の「序」 50-51
- [3] シュンペーター：『理論経済学の本質と主要内容』の「序言」 51
- 注——他にワルラス、メンガー、ジェヴォンス、ゴッセン、マーシャルを含む

#### 佐和隆光

経済学にいま何ができるのか 中央公論 (98/6) 124-135 (1983.6.1)

注——マルクス没後百年、ケインズ、シュンペーター生誕後百年の文言有り

#### 関 恒義

マルクス没後百年間の経済学——ケインズとシュンペーター生誕百年に関連させて 季刊科学と思想 (49) 22-34 (1983.7.1)

注——マルクスの部の雑誌・記念特集号からの重出

#### 田中義久

100年祝祭のむなしさ——求められるパラダイム転換（'83年前半—論壇の潮流〈社会〉）  
エコノミスト (61/33) <w.no. 2527> <8月16, 23合併号> 135-138 (1983.8.23)

注——当記事は、マルクス、ケインズ、シュンペーターとともにワグナー（没後百年）、ブラームス（生誕百五十年）にむしろ触れるところが多いものである

#### 鶴田満彦

資本主義の運命——マルクス・ケインズ・シュンペーターをめぐって（大特集・経済学のすすめ、83年版）経済 (229) 10-21 (1983.5.1)

#### 米田康彦

山口正之著「危機の時代の経済学」[Book 新刊案内] 経済 (232) 207 (1983.8.1)

#### 3) 新聞

i 特集記事

日本經濟新聞〔經濟教室〕(1983.1.1—6)

經濟学100年 1—5

- 1 ケインズ シュムペーター マルクス——そびえ立つケインズ, 予言外れたマルクス——シュムペーター株上がる ポール・A・サムエルソン(MIT教授) 19 (1.1)
 

マルクス——評価高めたのは資本論の難解さ  
ケインズ——マルクスなんか眼中になかった  
シュムペーター——循環発展の理論日本にぴったり
- 2 ケインズ シュムペーター マルクス——三巨人も戸惑う「現実」, 変身続ける資本主義, 社会主義には向かわず 熊谷尚夫(關西大教授) 18 (1.3)
 

シュムペーター——資本主義の運命に傍観者の態度  
ケインズ——安定した発展へ賢明な管理続く
- 3 ケインズ——「ケインズ」健在なり, 均衡論的偏向超えて, 「期待の役割」とくに重視 宇沢弘文(東京大教授) 14 (1.4)
 

理論的枠組み——マクロ経済の変量メカニズム  
広がる不信——理論的妥当性も政策的有用性も  
基本的問題点——社会的共通資本の役割考慮せず
- 4 シュムペーター ——さめた目いま生きる, 骨太に描く發展理論, 科学と政策きっぱり区別 塩野谷祐一(一橋大教授) 14 (1.5)
 

ケインズ批判——政策論をかたり科学的真理装う  
マルクス継承——内生的な發展力のビジョン共有  
先進国病予見——資本主義の活力そぐ政府の統制
- 5 マルクス——發展する「マルクス」, 「市場妄想」打ち破る, 巨大技術の時代に脚光 關根友彦(加ヨーク大準教授) 14 (1.6)
 

宇野理論——初歩的常識脱し「資本論」を純化  
広義の經濟学——自然と調和する生産活動めざす

日本經濟新聞(1983.2.21—3.11)

經濟学・巨人たちの百年 1-15: 第1—2部

注——1) 当記事は, 直接マルクス, ケインズ, シュムペーターを論じているものではないが, 標題にもあるように(冒頭にマルクス没後百年, ケイン

ズ、シュムペーター生誕百年の文言も有る), 背景として当然三者が意識されてあるものと解して採録した

- 2) 当記事作成に与かった本誌特別取材班は, 東京本社経済解説部次長三橋規宏, 同部内田茂男, 鈴木正俊, 岡田任弘, 東京経済部秋山豊。ワシントン支局長市岡揚一郎, ロンドン支局長村瀬満男で構成
- 3) 当記事をベースにして, さらにやさしく, くわしく書き改めたものとして, 同社編「資本主義 1983——経済学・巨人たちの百年」が出版された。なお同書「まえがき」によると担当者の所属表示が若干相違している。マルクス・ケインズ・シュムペーターの部「単行書」参照

#### 第1部 [1-7] 資本主義・予言を超えて

- 1 不況に沈む“聖地”受難——混迷の中で再生探る 1 (2.21)
- 2 勤勉精神土台揺らぐ——あのドイツさえ“発病” 1 (2.22)
- 3 “途上国危機”の暗影——先進国脅かす怪物に 1 (2.23)
- 4 内を向く自由貿易派——“国際主義”の限界露呈 1 (2.25)
- 5 困った時のケインズ頼み——政治利用の落とし穴 1 (2.27)
- 6 答えを出せぬ学者たち——混迷を解く理論混乱 1 (2.28)
- 7 三巨人S F座談会——世界不況脱出の道ある, 想像さえしない現象も, 出よ!  
我々を超える理論 1 (3.1)

#### 第2部 [8-15] マイナス経済との戦い

- 8 戦士たち喫茶室に集う——新理論促す技術革新 1 (3.2)
- 9 強い米国へ新・開拓者魂——貯蓄—投資の軌道敷く 1 (3.3)
- 10 モンロー主義の誘惑——自由貿易孤立防ぐ時 1 (3.4)
- 11 サッチャーの対角線——不況に耐え体質改善 1 (3.6)
- 12 飢えを知らぬ世代抱え——富に続く活力源探る 1 (3.7)
- 13 世界不況脱出の知恵——協調行動とり戻せ, 財政抑え金融テコに 1 (3.8)
- 14 経済学者五人の提案——〈政府規制〉悪法を改めるべき時(M. フリードマン),  
〈貿易摩擦〉一般的相互主義を (L. サロー), 〈通貨・為替〉ワイダーバンド必要 (J. サックス), 〈投資促進〉企業の負担を軽減 (G. ステイグラ  
ー), 〈一次産品〉価格安定へ各国協調 (N. カルドア), 1 (3.10)
- 15 資本主義再生の処方せん——〈カルテ1〉ケインズ政策地球的規模で, 〈“  
2〉通貨・通商安定新国際会議を, 〈“ 3〉「大国」の責務日本果た

す時 1 (3.11)

日本經濟新聞 [經濟教室] (1983.3.10—12)

[座談会]「経済学・巨人たちの百年」——経済学に何を求めるか [座談会] 上・中

・下

上 神谷不二 (慶応大教授), 木村尚三郎 (東京大教授), 石井威望 (東京大教授), 飯田経夫 (名古屋大教授) 15 (3.10)

中 島田晴雄 (慶応大教授), 中谷 巖 (大阪大助教授), 岩井克人 (東京大助教授), 佐和隆光 (京都大教授) 15 (3.11)

下 現実に立ち向かう経済学——三巨人の評価——ケインズが理論の支柱, 欧米ではなじまぬグランドセオリー; 経済学の役割——見守りたい壮大な実験, 息づく資本主義を実感 三橋規宏 (日本經濟新聞 東京本社解説部次長), 鈴木正俊 (同部), 岡田任弘 (同部), 内田茂男 (同大阪本社証券部次長), 秋山豊 (同東京經濟部) 12 (3.12)

## ii 個別記事

平野喜一郎

現代世界と経済学——ケインズ, シュムペーター, そしてマルクス 1—最終回<16>  
(社研入門講座) 学生新聞 (日本共産党中央委員会) (1983.5.12—10.1)

- 1 経済学にみる科学と思想——流れ全体を把握し, 理論と思想の関係明確に 4  
(5.12)
- 2 スミスの思想と科学(1)——“自然的自由”根底に——当時, 全人類の利益を代表 4 (5.28)
- 3 “ ” (2)——価値法則を究明し——ブルジョア思想の弱点も 4  
(6.4)
- 4 リカードの時代と思想——労働価値論を純化し——資本主義社会歴史性を理解出来ず 4 (6.11)
- 5 リカードとマルクス——階級対立見ぬいたが——人口論の亡霊は現代にも 4  
(6.18)
- 6 カール・マルクス(1)——人間の解放のため——新しい経済学の必要を宣言 4

- (7.2)
- 7 " (2)——疎外論を真の科学に——私的所有の本質見きわめ 4
- (7.9)
- 8 " (3)——人間が経済を統制し——「物象化」克服する共産主義  
4 (7.16)
- 9 " (4)——剰余価値の正体解明——商品の物神性とその秘密は 4  
(7.23)
- 10 " (5)——物神性を徹底解明——分析から発生的に展開し 10 (8.  
20)
- 11 ジョン・スチュアート・ミル——無気力な折衷主義——古典派の再編成に失敗  
4 (8.27)
- 12 マーシャルと新古典派——労働と資本は調和？——全体的把握に成功せず 4  
(9.3)
- 13 ケインズ(1)——「企業家」の立場で——国家の介入の必要性説き 4 (9.10)
- 14 " (2)——政策の破綻は明らか——危機知りつつ体制擁護 4 (9.17)
- 15 J. A. シュムペーター——一般均衡論の限界こえ——首尾一貫しない発展の理論  
4 (9.24)
- 最終回 危機の克服のために——科学としての経済学を——民主主義を思想として  
5 (10.1)

#### 金森久雄

日本経済新聞社編「資本主義 1983—経済学・巨人たちの百年」〔読書〕日本経済新聞  
12 (1983.7.24)

#### 加藤 寛

日本経済新聞社編「資本主義 1983」〔印象に残った本—上半期の収穫から<アンケート  
特集>〕週刊読書人(1493) 4 (1983.8.8)

注——他2書と併せて論じられているもの

#### 熊谷尚夫

マルクス、シュムペーター、ケインズ——資本主義の運命をめぐって 関西大学通信



(131) 8 (1983.10.15)

中村達也

都留重人著「体制変革の政治経済学」——体制をめぐる重く鋭い問い——「フローの社会化」の戦略——まことに柔軟に現実経済を見据えて 週刊読書人 (1489) 4  
(1983.7.11)

中島 誠

都留重人著「体制変革の政治経済学」——「フローの社会化」戦略提示——“移行”の  
理念的条件を満たすもの 図書新聞 (355) 4 (1983.6.11)

坂井昭夫

山口正之著「危機の時代の経済学」——克服の方向の探索 [文化・読書] 赤旗 10  
(1983.7.11)

淡中剛郎

都留重人著「体制変革の政治経済学」——手直しの資本主義にすぎぬ体制変革 [読者の書評] 図書新聞 (366) 5 (1983.8.13)

建元正弘

経済学100年, もう一人の巨人——光彩放つ高田保馬の業績——壮大な理論体系を構築,  
再評価さるべき「勢力説」 [経済教室] 日本経済新聞 11 (1983.5.28)

注——当記事は標題のとおり高田保馬の業績と人となりを紹介したものであるが、生誕百年を同じくするケインズ、シュムペーターおよび没後百年のマルクス三者の名を傍引しており、とくに「来日のシュムペーターと論争」の小見出しがあるように、シュムペーター、ケインズについては若干の関連する文言を含んでいる

都留重人

経済学三巨星——百年祭に学ぶ多様さ 朝日新聞 1 (1983.2.6)

注——同氏著「体制変革の政治経済学」付論に収録、ただし表記に若干の相違有

り, マルクス, ケインズ, シュムペーターの部「単行書」参照

iii 書評・文化・紹介欄(著者性のないもの)

朝日新聞:〔読書〕日本経済新聞社「資本主義 1983」——臨場感と多方面の視点 13  
(1983.8.9)

関学ジャーナル:〔ブック・ガイド〕日本経済新聞社編「資本主義 1983——経済学・  
巨人たちの百年」——経済と経済学の転換点 (53) 5 (1983.9.21)

読売新聞:〔読書〕日本経済新聞社「資本主義 1983」——新しい経済学への挑戦 9  
(1983.8.1)

4) 目録

日本大学経済学部図書館

マルクス没後百年〔, 〕ケインズ, シュンペータ [ママ] 生誕百年記念展示目録 東京  
同大学同館 (1983)

14p 26cm

注——マルクス, ケインズ, シュムペーターの部「記念展示会」参照

東京経済大学図書館

マルクス没後100年〔, 〕ケインズ, シュムペーター生誕100年記念展示目録 東京 同  
大学同館 (1983.11)

22p 25cm

注——1) マルクス, ケインズ, シュムペーターの部「記念講演会」参照

2) 同上の部「記念展示会」参照

## II マルクス、ケインズの部

### 3 出版物

#### 1) 単行書

記念出版に該当しないと思われるが、マルクス、ケインズ経済学関係書一般（略記述）

近代経済学研究会編「マルクスとケインズ世界十五大経済学」 富士書店（1983.4.20）  
¥1,400

塩沢由典著「近代経済学の反省」（経済学研究双書） 日本経済新聞社（1983.11.17）  
¥4,800

〔関係記事〕日本読書新聞（1984.5.28）（小倉利丸）、週刊読書人（1984.2.27）  
（藤森頼明）

#### 2) 雑誌

##### i 特集号

中央評論（中央大学）35(3)〈w. no. 165〉（1983.10.25）

##### 特集・マルクスとケインズ

現代から見たマルクスとケインズ 鶴田満彦 12-18

マルクス経済学と現代 徳重昌志 19-25

ケインズ生誕百年に寄せて 浅野栄一 26-32

ケインズと現代資本主義 川口 弘 33-40

ケインズ経済学の再検討——ポスト・ケインジアン の視点から 緒方俊雄 41-53

注——本稿は、同氏稿「ポスト・ケインジアン派経済学の方法とパラダイム」

（東洋経済「近代経済学シリーズ」No. 50）の一部に加筆したもの

#### 3) 新聞

##### ii 個別記事

藤森頼明

塩沢由典著「近代経済学の反省」——均衡概念を否定・追放——近経の方法論的反省に  
斬新な論点を提供 [書評] 週刊読書人 (1521) 4 (1984.2.27)

小倉利丸

塩沢由典著「近代経済学の反省」——稔り豊かな「創造的批判」の試みへ——荒涼たる  
新古典派の荒野に「過程」分析の武器をもって新たな体系を構築する作業 [思想  
Bookend] 日本読書新聞 (2259) 4 (1984.5.28)

#### 4) 目録

マルクスからケインズへ (類書特集) ウィークリー出版情報 (日本出版販売株) 2 (21)  
<5月5週号> 6-11 (1983.5.31)

注——マルクス、ケインズの各著書、伝記、評伝、経済学からの関連図書を集め  
たもの

### III マルクスの部

#### 1 記念講演 [会]

##### 1) 協議会・学会

経済学史学会

全国大会 第47回 於広島大学 1983.11.12-13

注——以下マルクスにかんするもののみを挙げた

第1日 11.12

自由論題 於第1会場

- 1 マルクス形成史の原理について——「経・哲草稿」を中心とした一考察 大石高久 (拓殖大)
- 2 マルクスの「疎外」と「物象化」 山本広太郎
- 3 資本一般と諸資本の蓄積 川本勝美 (大阪経済大・非常勤講師)
- 4 「1861-63年草稿」における「資本論」第1部草稿と第3部草稿との関連に

ついて——資本蓄積論形成過程の一齣 原 伸子 (法政大)

- 5 再生産表式 I・II部門転位 (第8稿)へのあゆみ——資本循環論確立を軸として 宮川 彰 (東京都立大)

第2日 11.13

自由論題 (続) 於第1-2会場

- 6 マルクスの「国際価値論」をめぐる諸問題 木原行雄 (東京経済大) 於第1会場

〃 ミルとマルクス——方法の関係 馬渡尚憲 (東北大) 於第2会場

共通論題: マルクスの経済学——形成史を通ずる全体像の把握 <司会>服部文男 (東北大), 吉沢芳樹 (専修大) 於第1会場

開題 服部文男

- 1 「資本論」と初期マルクス 中川 弘 (福島大), コメント: 山中隆次 (中央大)
- 2 中期マルクスの経済学——「経済学批判要綱」を中心に 内田 弘 (専修大), コメント: 山田鋭夫 (大阪市立大)
- 3 マルクス「資本」概念の再展開——マルクスからの出発と「資本」への再内在 平田清明 (京都大), コメント: 向井公敏 (同志社大)

討論

総括 吉沢芳樹 (専修大)

## 経済理論学会

第31回大会 同会同大会準備委員会, 日本福祉大学経済学部・社会科学研究所島崎研究室 於同大学 1983.10.1-2

第1日 10.1

共通論題「マルクスの経済学」

第1分科会 <司会>服部文男 (東北大), 三宅義夫 (大東文化大)

- 1 「剰余価値学説史」と「機械論草稿」 吉田文和 (北海道大)
- 2 Marx "Citatenheft" の理論的性格 大野節夫 (同志社大), 佐武弘章 (大阪府立大)
- 3 利子生み資本の形成〔論〕について 大谷禎之介 (法政大)
- 4 資本一般と競争——草稿第3章「資本と利潤」を中心に 大村 泉 (北海学

園大)

5 「資本論」の成立 佐藤金三郎(横浜国立大)

第2分科会 <司会>金子ハルオ(東京都立大), 副島種典(愛知大)

1 疎外論と物象化論 平子友長(北海道大)

2 マルクスにおける生活手段と生活様式 角田修一(立命館大)

3 マルクスにおける資本主義範疇の確定 重田澄男(静岡大)

4 マルクスの共同体論と現代 守屋典郎

5 マルクス経済学説の基本性格と、現代の理論的課題 横山正彦(駒澤大)

第3分科会 <司会>深町郁弥(九州大), 大内秀明(東北大)

1 流通手段の前貸と資本の前貸——個別資本の流通過程の見地から 前畑雪彦  
(立教大<大学院>)

2 インフレーション本質の貨幣性——価値形態転換の問題 飯田 繁(岐阜大)

3 収入形態論の方法——「資本論」の結語をめぐる 若森章孝(関西大)

4 「資本論」体系における階級と国家 阿部 弘(駒澤大)

5 国際的不等価交換論とその批判について——エマニエルの所説を中心に 細  
居俊明(東京都立大)

第2日 10.2

シンポジウム「資本論の現代的意義」 <司会>川鍋正敏, 長島誠一, 宮崎犀一

1 現代資本主義と「資本論」 置塩信雄(神戸大)

2 資本主義の基本的な矛盾 井村喜代子(慶応大)

3 「資本論」の二つの側面と現代 日高 晋(法政大)

総括討論 小林弥六(筑波大), 大島雄一(名古屋大), 鶴田満彦(中央大)

一般討論

〔関係記事〕経済(236)(米田康彦), 経済セミナー(347)(S)

関東部会 於慶応義塾大学 1983.3.14

マルクス没後100年記念学術講演会

マルクスの文章について 土屋保男

マルクスとエンゲルス 佐藤金三郎(横浜国立大)

マルクスと現代 平田満明(京大)

現代資本主義の破綻をどう理解するか——マルクス理論の応用問題として

大内 力(信州大)

〔関係記事〕朝日新聞(1983.3.15)

関西西部会 於大阪経済大学 1983.3.14

マルクス没後100年記念シンポジウム

マルクス経済学と現代〔特別講演〕林 直道(大阪市立大)

マルクス生活時間論の現代的考察〔報告〕森岡孝二(関西大)

現代社会主義を考える〔報告〕上原一慶(京成大)

<司会>上島 武(大阪経済大)

関西西部会 於大阪経済法科大学 1983.9.10

「河上肇を通じてみたマルクス——マルクス没後100年によせて」杉原四郎(甲南大)

注——講演内容は「[大阪経済法科大学]研究年報」(3)に掲載, マルクスの部

「雑誌一個別記事」参照

経済理論学会西日本部会, 経済学史学会西南部会

マルクス没後百年記念講演会 於九州大学経済学部 1983.3.12

私のマルクス研究 副田満輝(北九州大)

私のマルクス研究 高木幸二郎(西南学院大)

注——講演内容は「経済学史学会・西南部会通信」(1984.1.)に掲載, マルクス

の部「雑誌一個別記事」参照

経済資料協議会

第38回総会 於龍谷大学社会科学研究所 1983.5.19—20

〔第2日〕 5.20

マルクス没後100年の記念出版について ギュンター・ヘニング(ディーツ出版社社長)

注——1) 新 MEGA の出版とその出版に伴う諸問題について論じたもの

2) 講演者原綴: Günter Henning

西部部会研究会 於関西大学経済学部 1983.6.24

## 晩年のマルクスとロシア 田中真晴（甲南大）

注——マルクス没後100年を記念して、当日2講演のうちの1つとして、行われたもの

## 社会思想史学会

第8回大会 於松山商科大学 1983.10.1-2

〔第1日〕 10.1の内

「マルクスとその周辺」（インフォーマル・セッション、テーマ 8）良知 力  
 シンポジウム：〈司会〉山下 肇，平井俊彦，徳永 恂の内  
 マルクスとE・ブロッホ 好村富士彦（広島大）

〔第2日〕 10.2

シンポジウム：〈司会〉山下 肇，平井俊彦，徳永 恂  
 サルトル，メルロー＝ポンティとマルクス主義 片山洋之介（茨城大）  
 アルチュセールとポスト構造主義 浅田 彰（京大）  
 マルクスとハーバマス 山本 啓（秋田大）

## 2) 大学

## 旭川大学

「マルクス没後100年旭川連続講座」「マルクス没後100年旭川連続講座」実行委員会  
 於勤労者福祉会館および市民文化会館 1983

〔第1回〕 於勤労者福祉会館 4.27

「資本論」の切り拓いた世界 安田展敏（旭川大）

〔第2回〕 於市民文化会館 5.28

ポーランドにおける連帯労組の闘いについて 伊東孝之（北浦道大）

〔第3回〕 於市民文化会館 6.25

日本資本主義論争と現代社会主義 西川博史（北海学園大）

〔最終回〕 於勤労者福祉会館 10.17

日本の労働運動とマルクス主義 足立 実（東京東部労働組合）

## 東北大学



昭和58年度「経和会記念財団助成金」により開催された研究〔講座〕 同大学経済学部  
1983—1984

注——以下マルクスにかんするもののみを挙げた

マルクスと人間解放 関根友彦(カナダ・ヨーク大) 1983.5.7

注——マルクスの部「単行書」(いいだもも, 伊藤 誠編「いまマルクスを問  
う」)参照。ただし同書には「マルクスと人間解放の思想」とあり

マルクス・エンゲルスにおける成長楽観主義とエコロジ的意識 イーリング・フェ  
ッチャー(フランクフルト大) 1983.11.22

注——マルクスの部「記念講演〔会〕」, 3) その他——フリードリッヒ・エーベ  
ルト・シュティフテウング東京事務所をも参照, ただし, 表記に若干の相  
違有り

マルクス経済学から見た二つの経済学 杉浦克己(東京大) 1984.1.30

マルクス死後100年(公開講演会) 同大学教育学部附属大学教育開放センター 於同  
大学文教大講義室 1983.6.4

マルクスと現代 大内 力(東北大名誉教授)

仙台とマルクス 斉藤晴造(東北大名誉教授)

マルクス死後100年(大学教育関係講座) 同大学教育学部附属大学教育開放センター  
於仙台市戦災復興記念館 1983.6.8—7.6

マルクスにおける人間と社会 細谷 昂(東北大) 6.8

マルクスと現代の哲学 今村仁司(東京経済大) 6.15

注——マルクスの部「単行書」(同氏著「批判への意志」)参照。ただし, 同書  
あとがきには「マルクスと現代思想」とあり

マルクスと社会主義思想 服部文男(東北大) 6.22

マルクス経済学の100年 渡辺 寛(東北大) 6.29

マルクスの世界史像と現代 吉岡昭彦(東北大) 7.6

#### 東京経済大学

カール・マルクス没後100年記念シンポジウム 第1—2回 東京経済大学(研究委員  
会) 於同大学 1983.5.28—6.4

## 第1回 5.28

マルクスと経済学 春田素夫（東京経済大）

マルクスと哲学 廣松 渉（東京大）

マルクスと政治学 柴田高好（東京経済大）

注——当日他に予定されていた「マルクスと歴史学」は、講師下山三郎氏（東京経済大）が病気のため中止

## 第2回 6.4

マルクスと第三世界 山崎 馨〔カラル〕（東京経済大）

マルクスと現代経済学 高須賀義博（一橋大）

注——1) シンポジウム参加者：井汲卓一，門上秀叡（各東京経済大名誉教授），入江敏夫，江夏美千穂，大原 慧，下山三郎，田中章義，長岡克行（各東京経済大教授），他に大学院・学部の学生諸氏  
2) 各当日の講演内容は，東京経大会誌（134）に掲載。マルクスの部「雑誌—特集号」参照。

## 早稲田大学

マルクス生誕165年，没後100年講演シンポジウム〔早稲田祭本部企画Ⅱ〕 第30回早稲田祭実行委員会 於同大学 1983.11.3

マルクス疎外論の現代的意義は何か？ 城塚 登（東京大），船山信一，今村仁司（東京経済大）

〔関係記事〕早稲田祭（30）

## 愛知大学

同大学大学院 於同大学 1983.10.20—11.14

マルクス死後100年のマルクス経済学 副島種典（愛知大） 10.20

マルクス・エンゲルス研究の現状と課題——新資料の公刊をめぐる〔大学院経済学研究科特別講義〕 服部文男（東北大） 11.14

## 立命館大学

立命館土曜講座 同大学人文科学研究所 於同大学存心館 1983.5.7

マルクスの思想と理論——没後100年 小檜山政克（立命大）

注——恒常的に継続して開催されている当講座の第1771回として取り上げられたもの

## 関西大学

経済・政治研究所公開講座 同大学同所 於同大学経商学会 1983.5.11

マルクス没後100年と現存社会主義 長砂 実（関西大）

注——1) 恒常的に継続して開催されている当講座の第20回として取り上げられたもの

2) 当講演内容要旨は、「関大」（1983.6.15）に掲載。マルクスの部「新聞一個別記事」参照

マルクス没後100年連続講演会 マルクス没後100年連続講演会実行委員会 於同大学  
経商学会 1983.6.1—15

マルクス経済学の現代的意義 林 直道（大阪市立大） 6.1

現代社会主義論 長砂 実（関西大） 6.8

現代の思想状況とマルクス 鯉坂 真（関西大） 6.15

マルクス没後100年連続講演会 Part 2 マルクス没後100年連続講演会実行委員会  
於同大学 1983.10.7—19

マルクス主義と歴史学 中村 哲（京都大） 於経商学会 10.7

マルクスとハイネ——マルクス主義と文学 宇佐美幸彦（関西大）於法文学会 10.12

現代思想とマルクス主義 鯉坂 真（関西大） 於法文学会 10.19

## 大阪経済大学

マルクス没後百年記念企画 同大学生協組織部、唯物論研究会および社会科学研究会  
共催 於同大学 1983.6.28

マルクス経済学入門——深まる日本経済危機を分析する理論的武器を〔討論会〕

注——恒常的に継続して開催されている学内定期討論会において、当企画が取り上げられたもの

3) その他

フリードリッヒ・エーベルト・シュティフテウング東京事務所

フェッチャー教授講演会 1983.11

注——1) 講演者： フランクフルト大学社会科学部長

2) 当講演は通訳付

1 京都大学経済学会，京都ドイツ文化センター共催 於同センター 11.18

テーマ「マルクスにおける経済成長とエコロジー」

2 早稲田大学科外講演部共催 於同大学小野講堂 11.21

テーマ「マルクスと人間生活」

3 東北大学経済学会共催，於同大学経済学部 11.22

テーマ「マルクスにおける経済成長とエコロジー」

注——マルクスの部「記念講演[会]」，1) 協議会・学会—東北大学，参照，ただし，表記に若干の相違有り

4 朝日新聞社共催，朝日イブニング・ニュース後援 於同新聞東京本社朝日ホール  
11.24

テーマ「マルクスにおける経済成長とエコロジー」

特別講演「今日マルクスを想う」 都留重人（一橋大名誉教授）

季刊クライシス編集委員会及び季刊クライシス首都圏読書会 第1—3回

第1回 マルクス死後百年〈いま階級を問う〉講演会 於東京・神宮前区民会館

1983.1.29

いま階級を問う 伊藤 誠

階級闘争と第三世界・市民運動 北沢洋子

人間の全体性の解放にむけて 金井淑子

階級と解放の主体 白川真澄

マルクスの復権を求めて〔ディスカッション〕 伊藤 誠，北沢洋子，金井  
淑子，白川真澄

注——当講演会の内容は

1) 「現代の眼」(1983.4刊)に，そのかなりの部分が

2) 「いまマルクスを問う」(いいだもも，伊藤 誠編)(1984.  
1.31刊)に，若干の補整を加えて

掲載されている，マルクスの部「雑誌—特集号」「単行書」各参照

第2回 マルクス死後百年〈いま社会主義を問う〉講演会 於東京・千駄ヶ谷区民会館  
1983.2.26

注——当講演会の標題は、〈いま社会主義は再生できるか〉ともあり  
社会主義革命とは何か 寺尾五郎

ポーランド「連帯」ともうひとつの革命 白川真澄

社会主義と労働運動 横山好夫

マルクス主義と社会主義 伊藤 誠

〔ディスカッション〕 寺尾五郎, 白川真澄, 横山好夫, 伊藤 誠

注——当講演会の内容の一部(横山氏のもの)は、いいだもも、伊藤誠  
編「いまマルクスを問う」に掲載されている、マルクスの部「単行  
書」参照

第3回 マルクス死後百年記念〈いまマルクスを問う〉講演会 於東京・牛込公会堂  
1983.3.12

マルクスにおける生けるものと死せるもの 石堂清倫

今、マルクスを問う 都留重人(一橋大名誉教授)

「共産党宣言」の思想 廣松 渉(東京大)

注——1) 当日、他に予定されていた「マルクス主義と朝鮮革命運動」  
は、講師高峻石氏が病気のため中止

2) 上記廣松氏の講演内容は、「インパクション」(23-25)に掲載  
されている、マルクスの部「雑誌一特集号」参照

3) 同石堂、都留両氏の講演内容は、マルクスの部「単行書」  
(いいだもも、伊藤 誠編「いまマルクスを問う」)参照

〔〈以上第1-3回〉関係記事〕(季刊)クライシス (14)

基礎經濟科学研究所

マルクス没後100年記念シンポジウム 同所研究教育委員会、共同研究部、「經濟科学  
通信」編集部 於茨木福祉文化会館 1983.2.27

マルクスの現代的再生めざして——歴史認識と社会変革

マルクスにおける歴史的認識と社会変革 重田澄男(静岡大)

労働日の制限・短縮と人間の発達——マルクスの生活時間論をめぐって 森岡孝二  
(関西大)

民衆発達の経済史を求めて 藤岡 惇（立命館大）

〔討論〕 後藤康夫，中原 優

注——上記各報告内容は「経済科学通信」（39）に掲載，マルクスの部「雑誌—特集号」参照

第3回経済理論部会 同所同会 於京都学生センター 1983.5.7

現代経済学の課題——マルクスの現代的再生の為に

報告 1 「マルクス没後100年」をめぐって 江尻 彰

2 現代資本主義の危機と経済理論 竹味能成

注——報告3は直接マルクスと関係がないと思われるので省略

コメント 森岡孝二（関西大）

注——1) 上記各報告内容は「経済科学通信」（39）に掲載。マルクスの部「雑誌—特集号」参照

2) さらに簡略な要旨は同誌（40）に掲載，同部「同一個別記事」参照

日本共産党中央委員会

マルクス没後百周年記念講演会 於東京・千代田区公会堂 1983.5.13

あいさつ 内藤 功（同党中央委員・前参議院議員）

カール・マルクスと現代の青春 西沢舜一（同党幹部会委員）

マルクス百年と日本共産党 不破哲三（同党幹部会委員長）

〈司会〉 平山知子（同党中央委員）

注——上記あいさつの大要，各講演の大要および当講演に加筆したものは「理論政策」（185），「前衛」（495），赤旗（1983.5.18-24〈不破講演〉），同（1983.5.21〈西沢講演〉）に掲載。マルクスの部「雑誌—特集号」参照，なお同部「単行書」—不破著をも参照

〔関係記事〕 赤旗（1983.5.9）（長久理嗣）

〔日本共産党〕中央人民大学夏期講座 同党中央委員会 於長野県松本市浅間社会文化会館 1983.8.21

科学的社會主義と現代——マルクス没後100年 不破哲三（同党幹部会委員長）

注——8.20-22に開かれる上記講座のうち，マルクス没後100年を記念して取り

上げたもの

全国社会科学研究会連合会

第6回全国社会科学ゼミナール記念講演 於東京都立大学 7.26

マルクス没後百年と現代 上田耕一郎（日本共産党副委員長）

注——当講演に加筆したものは「前衛」（498, 500, 502）に掲載，マルクスの部「雑誌個別記事」参照

注——当「記念講演[会]」における講師の所属機関は，原則として講演当時のものを記したが，ポスター・案内書等に表示されている所属はそのまま用いた

## 2 記念展示会

### 2) 大学

東北大学

マルクス関係資料展 於同大学付属図書館 1983.6.4-18<除日曜>

注——1) マルクス自身の書込みのある「哲学の貧困」（梶田民蔵文庫）をはじめとするマルクス関係稀観図書18点，他にマルクス肖像画等，なお上記書は6月4,14,18の3日間のみ

2) 当展示会の展観目録有り，マルクスの部「目録」参照

〔関係記事〕木這子（1983.8.31）

### 3) その他

フリードリッヒ・エーベルト・シュティフテュング東京事務所

没後百年記念展——カール・マルクス特別パネル展

1) 京都大学経済学会，京都ドイツ文化センター共催 於同センター 11.13-17

2) 早稲田大学社会科学研究所，東京ドイツ文化センター，日本社会党，民社党，日本労働組合総評議会，全日本労働総同盟，中労労働組合連絡会議，全国産業別労働組合連合後援 於早稲田大学大隈記念堂 11.25-12.8<除11.27, 12.4の日曜>

注——1) フリードリッヒ・エーベルト財団所有博物館カール・マルクス・ハウス（生家）の展示パネル（オリジナルを含む）日本初公開，とあり

## 2) 目録有り, マルクスの部「目録」参照

## マルクス没後百年ブックフェア

注——展示・即売会の性格をもつものとして, 以下に一括する

- 1) 京都囃々堂京宝店 1983.2.1—3.1
- 2) 紀伊国屋書店本店(新宿) 1983.2.19—3.21
- 3) 同 渋谷店 1983.3.8—30
- 4) 西武ブックセンター池袋店 1983.5.13—6.8
- 5) 東京堂書店 1983.6.18—7.30

注——上記2)-5) フェア用に作成された文献目録有り, マルクスの部「目録」参照

〔関係記事〕毎日新聞(1983.3.14), 日本読書新聞(1983.3.7), 同(1983.5.9), 同(1983.5.23), サンケイ新聞(1983.3.7)

## 3 出版物

## 1) 単行書

## Blumenberg, Werner

マルクス W. ブルーメンベルク著 浜井 修, 堤 彪訳 (ロロロ伝記叢書) 東京理想社 (1983.12.10) ¥1,700

220 <内, 目次 [3-4], 本文 [7-196], 年譜 [197-199], 証言 [200-204], 訳注 [205-209], 参考文献 [210-219], 訳者あとがき [220]>, 8 <人名索引> p 19cm

注——1) 上記「証言」の中に, ヨーゼフ・シムペーターのもの(出典は, 「経済学史<1924年>」, 「資本主義・社会主義・民主主義<1945年>」)有り

2) 本文ページ中, マルクス及びマルクス関係の写真多し

原典: Karl Marx, in Selbstzeugnissen und Bilddokumenten. Hamburg, Rowohlt Reinbek, 1962.

## Briggs, Asa

マルクス・イン・ロンドン——ちょうど100年前の物語 (グラフィック・ベンチャー)

A・ブリッグス著 小林健人訳 大内秀明監修 東京 社会思想社 (1983.12.30)

¥1,600



152 <内, 目次 [2-3], 地図 [4], 本文 [5-141], 解説 (大内秀明) [142-147], 訳者あとがき [148-151], 地図 [152]>p 21cm

注——1) 本文ページ中に写真, 図等多し

2) 本書のオリジナルは, イギリス BBCTV の放送番組

原典: Marx in London. London, British Broadcasting Corp., 1982.

ドイツ博物館 (ベルリン) 及びディーツ出版社マルクス=エンゲルス編集部編

マルクス=エンゲルスとその時代——伝記アルバム マルクス=エンゲルス全集刊行委員会訳 池田光義訳協力 東京 大月書店 (1982.11.25) ¥25,000 (上製箱入)

357 <内, 目次 [4], 序文 [5-12], 本文 (絵画・写真が主) [13-327], 年譜 [329-335], 絵画・写真説明 [336-351], 出典 [352-357]>p 30cm

原典: Karl Marx und Friedrich Engels: Ihr Leben und ihre Zeit. Berlin, Diez, 1978.

〔関係記事〕 毎日新聞 (1983.3.14)

Fischer, Ernst

マルクス入門 エルンスト・フィッシャー著 船戸満之, 守山 晃訳 東京 合同出版 (1983.2.20<改装第6冊>) ¥1,000

171 <内, 目次 [1-4], まえがき [5-6], 本文 [7-159], 原注 [161-171]>p 18cm

注——1) 本書第1刷は1972年5月31日刊

2) 本書はマルクス生誕150年に因んで出版されたものと思われる

原典: Was Marx wirklich sagte. Verlag Fritz Moldn, [1968?]

Foner, Philip S. ed.

カール・マルクスが死んだ——1883年からのレポート P. S. フォーナー編 白川兼悦訳 東京 未来社 (1983.5.31) ¥2,000

326 <内, 目次 [3-4], 序 (編者による) [5-11], 本文 [13-260], 付録 [261-272: i) 小序, 261-263. ii) 1 カール・マルクスの生前に流された死亡記事, 263-266.

2 ジョン・スウィントン旅行記, 266-270. iv) 3 「資本論」の翻訳についてマルクス自身が語ったこと (ジョン・スウィントン), 270-272], 註 [273-316], 訳者あとがき [317-326]>p 19cm

原典：When Karl Marx died : Comments in 1883. New York, International Publishers Co., Inc., c 1973.

福富正実, 田口幸一

社会主義と共同占有——「個人的所有の再建」論争と甦るマルクス・エンゲルス (阪南大学叢書15) 東京 創樹社 (1984.2.10) ¥6,000

525 <内, 目次 [3-4], まえがき [5-21], 本文 [23-479], 付論1-2 [481-520], あとがき [521-525]>p 21cm

- 注——1) 付論 1 滝村国家論とわたしの立場 福富正実 483-504  
 “ 2 「食料安全保障論」の一考察 田口幸一 505-520  
 2) 上記まえがきに, マルクス没後100年の文言有り

〔関係記事〕日本読書新聞 (1983.9.26), 週刊読書人 (1984.4.30) (長砂 実)

不破哲三

現代に生きるマルクス 東京 新日本出版社 (1984.3.25) ¥1,300

249 <内, まえがき [1-3], 目次 [5-9], 本文 [11-249]>p 19cm

本文内容:

マルクスにおける革命と科学——没後百周年にさいして 11-115

注——「経済」(227, 228, 229) に掲載のもの, マルクスの部「雑誌一特集号」参照

マルクス百年と日本共産党 117-176

注——「前衛」(495) に掲載のもの, 同上および「記念講演[会]」—日本共産党主催参照

レーニンがマルクスをどう読んだか 177-249

注——「学生新聞」(日本共産党) 1983年10月1日—12月3日号掲載のもの, マルクスの部「新聞—個別記事」参照

〔関係記事〕赤旗 (1984.5.6) (寺田 均), 経済セミナー (241) (服部文男)

Goff, Tom W.

マルクスとミード——知識社会学への寄与 T.W. ゴフ著 河村 望監訳 東京 御茶の水書房 (1982.11.5) ¥2,400

5<内, はしがき [1-3], 目次 [5]>, 254<内, 本文 [1-238], 訳者あとがき [239-254]>, 22<内, 索引 [1-3], 参考文献 [4-22]>p 19cm

原典: Marx and Meed; Contributions to a sociology of knowledge.

London, Routledge & Kegan Paul, 1980.

〔関係記事〕朝日ジャーナル (1983.2.25) (綿貫譲治), 図書新聞 (1983.4.23)

#### 浜林正夫

現代と史的唯物論 (科学全書11) 東京 大月書店 (1984.2.16) ¥1,200

195<内, まえがき [3-5], 目次 [7-10], 本文 [11-195]>p 18cm

注—1) まえがき及び本文中に, マルクス没(死)後100年の文言有り

2) 当書は, 日本科学者会議の編集により刊行される, とあり

#### 原野人

日本型社会主義の魅力 東京 時潮社 (1983.9.20) ¥1,500

7<内, まえがき [1-4], 目次 [5-7]>, 228<内, 本文 [1-223], あとがき [224-228]>p 19cm

注—1) ブック・カバーに「……マルクス没後百年に際して」の副標題的表記有り

2) あとがきにも, 「マルクスが考えることをやめて百年」等の文が見出される

#### 平田清明

コンメンタル「資本」1-4 東京 日本評論社 (1980.7.10—1983.3.20) 22cm

1 (1980.7.10) ¥1,800 10<内, 凡例 [1-2], 目次 [3-10]>, 223, 3<参考文献一覧>p

2 (1981.2.10) ¥1,800 15<内, 凡例 [1-2], 1 [巻] の目次 [3-5], 当巻目次 [7-15]>p, p. 225-488, 3<参考文献一覧>p

3 (1982.5.15) ¥2,800 22<内, 凡例 [1-2], 1 [巻] の目次 [3-5], 2 [巻] の目次 [6-7], 当巻目次 [9-22]>p, p. 489-813, 4<参考文献>p

4 (1983.3.20) ¥3,400 25<内, 凡例 [1-2], 1 [巻] の目次 [3-5], 2 [巻] の目次 [6-7], 3 [巻] の目次 [8-12], 当巻目次 [13-25]>p, p. 815-1204<内,

第三部にはいるにあたって [817-819], 本文 [821-1147], あとがき [1149-1151], 文献案内 [1153-1173], 事項索引 [1174-1204]>

注——本書は「経済セミナー」に4年にわたり連載したもの、1部分をマルクスの部「雑誌一個別記事」に採録

〔関係記事〕朝日ジャーナル(1983.7.8)(伊藤 誠), 毎日新聞(1983.3.14), 日本読書新聞(1983.5.9), 週刊読書人(1983.6.6)(山本哲三), 同(1983.8.8)(野田弘英), 図書新聞(1983.7.9)(齊藤日出治), 同(1983.8.6)

### 廣松 渉

物象化論の構図 東京 岩波書店(1983.11.29) ¥1,700

16<内, 序文 [5-11], 目次 [13-15], 初出一覧 [16]>, 296, 18<内, 事項索引 [1-15], 人名索引 [16-18]>>p 19cm

〔関係記事〕赤旗(1983.12.19), 同(1984.4.16)(多岐一郎), 毎日新聞(1984.1.16), 日本読書新聞(1983.12.26)(山内 昶), 同(1984.2.20)(須藤 修), 週刊読書人(1984.3.5)(高橋洋児), 図書新聞(1983.12.24)

### Hook, Sidney

ヘーゲルからマルクスへ——カール・マルクスの精神的成長にかんする研究 シドニー・フック [著] 小野八十吉訳 東京 御茶の水書房(1983.6.20) ¥6,500  
35<内, 日本語版によせて(著者による)[1-3], 再版まえがき [5-17], 初版まえがき [19-24], 凡例 [25], 目次 [27-35]>, 433<内, 本文 [1-423], 訳者あとがき [425-433]>, 6<人名索引>>p 21cm

原典: Sidney Hook: From Hegel to Marx; studies in the intellectual development of Karl Marx (1936); new introduction, 6. printing. (First edition as Ann Arbor paperback 1962) The Univ. of Michigan Press, 1978.

〔関係記事〕日本読書新聞(1983.10.10)(山本啓), 週刊読書人(1983.10.10)(山本耕一)

### いidemも

エコロジーとマルクス主義 東京 緑風出版<発売元: 社会評論社> (1982.11.20)

¥2,400

382 &lt;内, 目次 [1-3], 本文 [5-378], あとがき [379-382]&gt;p 19cm

〔関係記事〕朝日ジャーナル(1983.1.28)(安永寿延), エコノミスト(1983.3.15)  
 (星野芳郎), 季刊クライシス(15)(高岡忠洋および信夫清三郎), 週刊読  
 書人(1983.3.28)(高木仁三郎), 週刊ポスト(1983.4.1)(椎名重明),  
 出版ニュース(1983.1月上・中旬号), 図書新聞(1983.1.1)(いいた  
 もも, 菅 孝行)

いいたもも, 伊藤 誠編

いまマルクスを問う 東京 幸洋出版(株) (1984.1.31) ¥1,900

249 <内, はじめに [1-6], 目次 [7-9], 本文 [11-206], おわりに [207-249]>  
 p 19cm

内容:

はじめに——マルクス・ルネッサンスの意義——百年忌(センテナリアル)に因んで  
 伊藤 誠 1-6

第1部 いま階級を問う

いま階級を問う 伊藤 誠 13-36

史的唯物論の全体像の再築構に向けて 金井淑子 37-54

階級闘争と第三世界・市民運動 北沢洋子 55-72

階級と解放の主体 白川真澄 73-95

第2部 いま社会主義を問う

労働運動と社会主義 横山好夫 99-110

コミュニオン革命とソヴェト革命の世界史的総括 岩田 弘 111-128

核時代のマルクス主義 伊藤成彦 129-143

第3部 いまマルクスを問う

いまマルクスを問う 都留都人 147-162

マルクスにおける生けるものと死せるもの 石堂清倫 163-186

マルクスと人間解放の思想 関根友彦 187-206

注——マルクスの部「記念講演[会]」, 2) 大学——東北大学参照,

ただし, 表記に若干の相違有り

おわりに ジャパン・アズ・ナンバーワン下の「カール・マルクス問題」群像——百

年忌（センテニアル）に因んで いいだもも 207-249

注——当論述は雑誌「現代の眼」初出のものに若干の加筆，表記を  
変えて掲載したもの，マルクスの部「雑誌—特集号」参照

注——本書は，「季刊クライシス主催のマルクス 記念連続集会の内容を再現し，  
講師の方々の補整を経て，多少の編集を加えたもの」と，上記「はじめに」  
にあり。当記念連続集会とは，以下の

- 1) マルクス死後百年・いま階級を問う 1983.1.29
- 2)       "                    ・いま社会主義を問う 1983.2.26
- 3)       "                    ・いまマルクスを問う 1983.3.12

を指し，これらは当目録のマルクスの部「記念講演[会]」，3) その他——季  
刊クライシス編集委員会他，に採録されているが，その内容と当書内容との  
部分的相違の事情は，当「はじめに」に詳しい

いいだもも，伊藤 誠，菅 孝行，北沢洋子，山川暁夫

マルクス没後 100 年——その現代的意義 東京 新地書房 (1983.3.14) ¥2,000  
8<目次>，279 p 19cm

〔関係記事〕日本読書新聞 (1983.4.18)，週刊ポスト (1983.6.17) (廣松 渉)；  
図書新聞 (1983.4.2)，同 (1983.8.6)

今村仁司

批判への意志 東京 冬樹社 (1983.11.10) ¥2,000

291 <内，まえがき [2-3]，目次 [5-7]，本文 [9-288]，あとがき [289-291]>p  
19cm

注——全体として社会科学の範疇に入る書であるが，第 1 部が「マルクスと現代  
思想」と題されており，とくに同名の第 1 章は書き下ろしであり，著者は  
1983年 6 月，於東北大学教育学部付属大学教育開放センター主催のマルクス  
死後 100 年記念講義のひとつを担当して「マルクスと現代思想」と題して講  
義を行なったが，本章はこのとき用意した原稿をもとにしたもの，とあとが  
きにある，マルクスの部「記念講演[会]」，2) 大学——東北大学参照

〔関係記事〕朝日ジャーナル (1984.2.10) (塩沢由典)，日本読書新聞 (1983.10.  
17)，同 (1983.12.26)，(高橋洋児)，同 (1983.12.26)，同 (1984.1.23)

(高橋洋児), 週刊読書人 (1984.1.30) (丸山圭三郎), 図書新聞 (1983.12.17) (山崎カヲル)

### 今村仁司

社会科学批評 (ポリロゴス叢書) 東京 国文社 (1983.12.5) ¥2,200

324 <内, 目次 [3-4], 本文 [5-313], あとがき [314-316], 初出一覧 [317], 索引 [319-324]>p 19cm

注——販売時添付の外帯には, 「マルクス [,] 構造主義・記号論」とあり

本文内容:

I 構造主義 7-86

II 記号論 87-148

III マルクス論 149-313

注——含補論「日本におけるマルクス研究の新動向」 293-313

〔関係記事〕日本読書新聞 (1983.12.26) (廣松 渉), 同 (1984.3.19) (野家啓一), 週刊読書人 (1984.1.30) (丸山圭三郎), 出版ニュース (1984.2月下旬号)

### 伊藤 誠

現代のマルクス経済学 (Books '80) 東京 テイビーエス・ブリタニカ (1982.5.28)

¥1,100

238 <内, はしがき [1-4], 目次 [5-8], 本文 [9-238]>p 18cm

注——1) 販売時の外帯に, 「マルクス死後100年を問う!」の表記有り

2) はしがきにも, 「……100年を記念すべきマルクス・センテナリアルが近い……」の文言有り

### 菅 孝行

マルクスと現代 東京 未来社 (1982.12.15) ¥1,800

294 <内, 目次 [1], 本文 [3-292], あとがき [293-294]>p 19cm

注——「あとがき」に1983年はマルクス死後百年に当たる, との文言有り

〔関係記事〕学生新聞(日本共産党) (1983.5.7) (長久理嗣), 毎日新聞 (1983.3.14), 日本読書新聞(1983.3.7) (小倉利丸), 週刊読書人 (1983.3.14)

(いいだもも), 週刊ポスト (1983.5.13) (北沢恒彦), 図書新聞 (1983.2.5) (山本耕一)

Karl Marx Haus, hrsg.

写真集/マルクスとエンゲルス カール=マルクス=ハウス編 佐藤金三郎監訳

竹永 進訳 東京 新評論 (1983.10.15) ¥2,000

140<内, 目次 [1-7], 序言 [8-9], 本文 [11-133], あとがきに代えて——カール=マルクス=ハウス, トリーア [134-138], マルクス/エンゲルス略年譜 [139-140]>  
p 22cm

原典: Karl-Marx-Haus, Trier (hrsg.): Karl Marx (1818-1883) und Friedrich Engels (1820-1895), Katalog zur historischen Studien-ausstellung über Leben und Werk; Zweite, verbesserte deutsche Aufl. Trier, Karl-Marx-Haus, 1980.

〔関係記事〕日本読書新聞 (1983.11.7)

Lewis, John

マルクスのマルクス主義 ジョン・ルイス著 玉井 茂, 渡辺義晴, 堀場正治訳 (りぶらりあ選書) 東京 法政大学出版局 (1983.3.30) ¥2,900

5<内, 凡例 [3], 目次 [4-5]>, 386<内, 本文 [1-374], 訳注 [375-381], 訳者あとがき [383-386]>, 4<人名索引>p 19cm

原典: The Marxism of Marx. London, Lawrence & Wishart, 1972.

Marx, Karl

マルクス全詩集 井上正蔵, 小西 悟, 中野和朗, 橋本 博訳 東京 大月書店

(1983.5.27) ¥8,000

9<内, 凡例 [1-2], 目次 [3-5], 訳者 (井上正蔵) まえがき [7-9]>, 414<内, 本文 [1-371], 作品細目付訳者一覧 [373-414: i) 総説, 382-386. ii) 成立その後, 387-400. iii) 事項注, 401-414]>, 9<内, 文献索引 [1-3], 人名索引 [4-9]>p 23cm

〔関係記事〕赤旗 (1983.6.27) (土井大助), 出版ニュース (1983.6月下旬号)



## Marx, Karl

資本論 カール・マルクス著 1-4 資本論翻訳委員会訳 社会科学研究所監修

東京 新日本出版社 (1982.11.15—1983.5.27) a ¥750 17cm

- 1 第1巻第1分冊 (1982.11.15) 10<内, 凡例 [3-5], 目次 [7-10]>, 248p
- 2 " 2 (1983.1.30) 9<内, 凡例 [3-5], 目次 [7-9]>p, p. 249-543
- 3 " 3 (1983.3.28) 10<内, 凡例 [3-5], 目次 [7-10]>p, p.545-913
- 4 " 4 (1983.5.27) 10<内, 凡例 [3-5], 目次 [7-10]>p, p.915-1325

注——当書各分冊の訳出グループおよび編集・統一者については各凡例に詳細に挙げられている, 当記述では略

[関係記事] 赤旗 (1983.2.28) (高山五郎) <第2分冊のみ>, 同 (1983.8.29) (横山正彦) <全4分冊>, 学生新聞 (日本共産党) (1983.7.23) (林直道), 「経済」(229) (戸木田嘉久) <第2分冊のみ>, 「経済」(232) (吉田文和) <第3分冊のみ>, 「経済」(236) (中川スミ) <第4分冊のみ>

## Marx, Karl

資本論 全 カール・マルクス著 マルクス=エンゲルス全集刊行委員会訳 東京 大月書店 (1982.10.20) ¥12,000

16<内, 凡例 [1-3], 主要目次 [5-16]>, 1010<内, 第1版序文 [7-12], 第2版後記 [13-23], フランス語版序文および後記 [24], 読者へ [25], 第3版へ (エンゲルス) [26-29], 英語版序文 (エンゲルス) [30-35], 第4版へ [36-44], 本文 (第1巻第1部: 資本の生産過程) [45-1010]>, 29<注解>, 650<内, 序文 (エンゲルス) [5-29], 第2版序文 (エンゲルス) [30-32], 本文 (第2巻第2部: 資本の流通過程 エンゲルス編) [33-650]>, 4<注解>, 1160<内, 序文 (エンゲルス) [5-30], 本文 (第3巻第3部: 資本主義的生産の総過程, エンゲルス編) [31-1131], 「資本論」第3部への補遺 (エンゲルス) [1133-1160]>, 20<注解>, 223<付録: 内, 細目次 [3-16], 文献目録 [17-100], 人名索引 [101-145], 文学・聖書・神話登場者名索引 [146-148], 事項索引 [149-220], 度量衡および通貨表 [221-223]>p 19cm

注——全3巻を1冊にまとめたもの

[関係記事] 毎日新聞 (1983.3.14)

## Marx, Karl

初版資本論 カール・マルクス著 江夏美千穂訳 新座(埼玉) 幻燈社 (1983.4.18)  
¥18,000

1<凡例>, 907<内, 標題紙 [1], ヴォルフあて献呈辞 [3], 目次 [5-8], マルクス序文 [9-15], 本文 [17-907]>, 9<訳者あとがき>p 22cm

〔関係記事〕経済系 (139) (江夏美千穂), 日本読書新聞 (1983.10.24) (内田弘), 週刊読書人 (1984.1.23) (時永 淑)

## 松石勝彦

資本論研究 東京 三嶺書房 (1983.4.30) ¥3,200

11<内, はしがき [1-3], 凡例 [4], 目次 [5-11]>, 348p 22cm

注——上記はしがきに「1983年1月10日マルクス没後百年を記念して」との文言有り

〔関係記事〕「経済」(233) (角田修一)

## 望月清司, 内田 弘, 山田鋭夫, 森田桐郎, 花崎泉平

マルクス——著作と思想——<現代>を解く鍵の再発見 (有斐閣新書D54) 東京  
有斐閣 (1982.11.30) ¥880

16<内, まえがき(著者一同) [1-4], 著者紹介 [5], 目次 [6-16]>, 298<本文 [1-284], マルクス年譜 [285-298]>>p 17cm

注——まえがきに, マルクス永眠100年の文言有り

〔関係記事〕毎日新聞 (1983.3.14)

## 長崎 浩

革命の問いとマルクス主義——階級, 自然, 国家そしてコムニオン (エスエル現代歴史思想選書1) 西宮 エスエル出版会<発売・鹿砦社> (1984.1.16) ¥1,800

281<内, 目次 [2-5], 本文 [7-278], あとがき [280-281]>>p 19cm

注——販売時の外帯に, マルクス没後100年の表記有り

〔関係記事〕日本読書新聞 (1984.7.16) (天野恵一), 週刊読書人 (1984.5.28)

(三上 治), 出版ニュース (1984.5月上旬号) (矢代 梓), 同 (1984.5月中旬号)

根井康之

東西思想の超克——現代の課題 東京 農山漁村文化協会 (1983.7.25) ¥1,400  
 341 <内, 目次 [1-6], 本文 [7-327], 引用文献 [328-339], あとがき [340-341]>  
 p 20cm

注——販売時の外帯に, 空海「十住心論」とマルクス「資本論」を西田哲学を触  
 媒に超克する——弘法大師1150年, マルクス 100 年記念, とあり  
 [関係記事] 週刊読書人(1983.10.10) (竹内良知)

大井 正他

マルクス思想の学際的研究 大井 正<代表著者>, 石塚正英, 石川三義, 柴田隆行,  
 生方 卓編  
 流山市 長崎出版(株) (1983.12.16) ¥2,800  
 4<内, はしがき(石塚正英による)[1-2], 目次 [3-4]>, 309<内, 本文[1-306],  
 執筆者紹介 [307-309]>p 22cm

本文内容:

- I プロレタリア独裁とマルクス 大井 正 1-17  
 マルクスのなかの私——「諸形態」と「古代社会ノート」をむすびつけて 布村  
 一夫 19-34  
 自由と共同——カントからマルクスへ 柴田隆行 35-62  
 マルクスの宗教批判とその時代——マルクス宗教批判研究序説 石川三義 63-92  
 三月前期ユートピアンのマルクス批判 石塚正英 93-120  
 唯物史観と初期マルクスの家旅論 生方 卓 121-137
- II 初期マルクスの労働概念について 飯田和人 139-158  
 商品関係と労働価値論——資本主義社会の<歴史>性の解説 岡林 茂 159-183  
 相対的過剰人口と賃金 高津宗之 185-209  
 マルクスの端初設定の問題と科学 斉藤悦雄 211-236  
 マルクス没後の社会思想——1883年以降1930年代までの日本およびヨーロッパ  
 二本柳 隆 237-264  
 東欧マルキストよりみた体制収斂説——ティンバーゲンとコルナイ 野口憲一  
 265-289  
 マルクス思想に関する著作年表1883—1983 大橋 隆 291-306

注——1) 大井正<代表著者>は、標題紙表示

2) はしがきに、「本書編集・上梓の2つの契機の中の1つとして本年はカール・マルクスの没後100年にあたっており、これを記念する意味で……」の文言有り

#### 岡崎次郎

マルクスに凭れて六十年——自嘲生涯記 東京 青土社 (1983.2.24) ¥1,600  
386 <内, 序 [3-5], 目次 [7-9], 本文 [11-382], 岡崎次郎略歴 [383-386]>p  
19cm

〔関係記事〕日本読書新聞 (1983.12.12) (水田 洋), 週刊読書人 (1983.6.20)  
(石堂清倫), 同 (1983.8.8) (時永 淑), 図書新聞 (1983.4.23) (渡辺  
寛), 読売新聞 (1983.3.14)

大月センチュリーズ——マルクス没後100年記念出版 東京 大月書店 (1983.3.14) 6  
冊 21cm

注——以下各冊の註解は、各本文ほかのページの下端にあり

〔1〕共産党宣言 マルクス、エンゲルス著 村田陽一訳及び注解 ¥700

98<内, 本文 [3-71], 付録:1872年ドイツ語版への序文 [74-75], 同:1882  
年ロシア語版への序文 [76-77], 同:1883年ドイツ語版への序文 [78-79], 同  
:1888年英語版への序文 [79-85], 同:1890年ドイツ語版への序文 [85-91],  
同:1892年ポーランド語版への序文 [91-93], 同:イタリアの読者へ (1893年  
イタリア語版への序文) [94-95], 1848年ドイツ語版と1888年英語版の異同対  
照表 [96-98]>p

訳注——1848年, ロンドン刊の30pの小冊子(独語)により, 英語版, ド  
イツ語重版へのエンゲルス注解を補足したもの, 付録の7序文は発  
表された各言語から翻訳

〔2〕空想から科学へ エンゲルス著 寺沢恒信, 村田陽一訳・寺沢恒信注解 ¥700

117<内, 本文 [3-84], 付録:フランス語版(1880年)へのまえがき(マルク  
ス) [86-87], 同:ドイツ語初版(1882年)への序文 [88-90], 同:ドイツ語第  
4版(1891年)への序文 [90-91], 同:英語版(1892年)への序論 [91-117]>p

訳注——1891年, ベルリン刊, ドイツ語補訂第4版による, 付録の4序文

は、発表された各言語から翻訳

- [3] 賃労働と資本 マルクス著 村田陽一訳 伊藤龍太郎注解 ¥600  
79<内, 1891年ドイツ語版へのエンゲルスのまえがき[1-20], 本文[21-79]>p  
訳注—1) 本文: 1953年, ベルリン刊「マルクス=エンゲルス 2巻選集」  
による  
2) エンゲルスのまえがき: 1891年, ドイツ語版による
- [4] 賃金・価格・利潤 マルクス著 土屋保男訳及び注解 ¥700  
119p  
訳注—手稿とその解説文から翻訳, とあり
- [5] フォイエルバッハ論 エンゲルス著 秋間 実, 藤川 覚訳 秋間 実注解  
¥700  
107 <内, まえがき [3-6], 本文 [7-100], マルクス=フォイエルバッハにつ  
いて [フォイエルバッハにかんするテーゼ] [101-107]>p  
訳注—Marx Engels Werke Bd. 21. Berlin, Dietz, 1962. による。
- [6] カール・マルクス レーニン著 村田陽一訳 河野公平注解 ¥600  
94<内, マルクスとエンゲルスの記念碑の除幕にあたって [3-6], 本文 (略伝  
とマルクス主義の解説) [7-74], マルクス主義の三つの源泉と三つの構成部分  
[75-86], カール・マルクスの学説の歴史的運命 [87-94]>p  
訳注—ロシア語版「レーニン全集」第5版による  
〔関係記事〕毎日新聞 (1983. 3. 14) 日本読書新聞 (1983. 3. 14), サンケイ新聞  
(1983. 3. 14), 出版ニュース (1983. 4月上旬号), 図書新聞 (1983. 3. 19),  
同 (1983. 4. 23) (内田 弘)

### Rius, Eduardo

- マルクス For beginners イラスト版 エドワード・リウス<文及びイラスト>  
小阪修平訳 東京 現代書館 (1983. 2. 1 [第14冊]) ¥950  
157 <内, まえがき [5-7], さしえ [9], 本文 [10-140], マルクスの用語集……こ  
とばの辞典 [141-148], その後の読者のために, あるいはマルクスのその後 [149-  
157]>p 21cm  
注—1) 著者本名はエドゥアルド・デ [ママ]・リオ (Rio, Eduardo del)  
2) 本書第1刷は1980年10月31日刊

〔関係記事〕毎日新聞（1983.3.14）

向坂逸郎

マルクス経済学と私 東京 社会主義協会出版局（1983.5.5） ¥1,500

3<目次>, 233<内, 本文 [1-230], あとがき [232-233]>p 19cm

注——1) 本文中IVの1部分「『資本論』の全体像」は同氏著「マルクス伝」の第13章「資本論」の改題

2) 当書カバーに、マルクス生誕165年、没後100年記念出版とあり

重田澄男

資本主義の発見——市民社会と初期マルクス（御茶の水選書） 東京 御茶の水書房  
（1983.1.20） ¥2,400

4<目次>, 285<内, 本文 [1-282], あとがき [283-285]>p 19cm

〔関係記事〕赤旗（1983.3.21）（服部文男）, 「経済」（229）（上野俊樹）, 日本読書新聞（1983.5.30）（内田 弘）, 週刊読書人（1983.8.8）（廣松 渉）

清水正徳, 降旗節雄編

宇野弘蔵の世界——マルクス理論の現代的再生 東京 有斐閣（1983.8.10） ¥3,500  
10<内, はしがき [1-3], 目次 [4-9], 執筆者紹介 [10]>, 378<内, 本文 [1-370], 宇野弘蔵年譜 [371-373], 宇野弘蔵主要著作一覧 [374-378]>p 21cm

注——本書の執筆者：降旗節雄, 山本哲三, 河西 勝, 清水正徳, 服部正喜, 藪田正喜, 吉井利真, 松原智雄, 堀 一郎, 山本道雄, 本書はその各分担により, 分担内容は上記はしがきに詳しい

〔関係記事〕日本読書新聞（1983.10.17）（吉田憲夫）, 週刊読書人（1983.10.31）（中村泰治）, 図書新聞（1983.10.8）（太田一廣）

Smith, David

資本論 For beginners イラスト版 ダヴィット・スミス<文>, フィル・エバンス  
<イラスト> 小阪修平訳 東京 現代書館（1983.6.25） ¥950

175 <内, この本の読み方 [2-3], 本文 [4-172], 訳者あとがき [173-175]>p 21cm

注——フィル・エバンス： Philip Evans

Stern, Heinz und Wolf, Dieter

偉大な遺産——マルクス遺稿物語 ハインツ・シュテルン, ディーター・ヴォルフ著

池田光義訳 東京 大月書店 (1983.3.27) ¥1,700

260 <内, まえがき (ハインリヒ・ゲムコー教授による) [3-5], 目次 [7-8], 本文 [9-248], 注 [249-256], あとがき (土屋保男による) [257-260]>p 19cm

原典: Das grosse Erde; eine historische Reportage um den literarischen Nachlass von Karl Marx und Friedrich Engels. Berlin, Dietz, 1972.

〔関係記事〕週刊朝日 (1983.5.20), 出版ニュース (1983.6月中旬号)

Sweezy, Paul M.

マルクス主義と現代 P. スウィージー著 柴田徳衛訳 東京 岩波書店 (1982.7.9)

¥1,200

9 <内, 日本版への著者の序文 [5-8], 目次 [9]>, 161 <内, 本文 [1-156], 訳者あとがき [157-161]>p 18cm

原典: Four lecture on Marxism. [New, York, Monthly Review Press, 1981]?

高橋正雄

マルクスと語る 東京 恒文社 (1984.1.31) ¥1,800

311 <内, はしがき [1-3], 目次 [4-5], 本文 [7-311]>p 19cm

注——1) 文中及び販売時の外帯に, マルクス没後100年或はこれに当る文言および表記有り

2) 巻頭, マルクス及びエンゲルスの写真有り

田村秀夫

マルクス・エンゲルスとイギリス 東京 研究社出版部 (1983.3.25) ¥1,500

3 <まえがき>, 4 <目次>, 176 <内, 本文 [1-173], 地名索引 [174←176]>p 19cm

〔関係記事〕図書新聞 (1983.4.23)

田村秀夫

マルクスとその時代 東京 中央大学出版部 (1983.3.14) ¥1,900

12<内, はしがき [1-4], 目次 [5-8], 地図 [9-12]>, 266, 6<地名索引>p 19cm

〔関係記事〕「経済セミナー」(342) (杉原四郎)

戸田 徹

マルクス葬送 東京 五月社 (1983.4.25) ¥1,600

214 <内, 目次 [3-5], 本文 [7-212], あとがき [213], 初出一覧 [214]>p 19cm

富塚良三, 服部文男, 本間要一郎編

資本論体系 2 東京 有斐閣 (1984.3.30) ¥3,500

9<内, 刊行にあたって [1-2], 本「体系」の特色と構成 [3], 編集委員および執筆者紹介 [4], 目次 [5-9], 凡例 [9]>, 463<内, 本文 [1-450]; 事項索引 [451-458] 人名索引 [459-463]>p 21cm

2 商品・貨幣 種瀬 茂, 富塚良三, 浜野俊一郎編

注——1) 当巻は全10巻の第1回配本

2) 下記の関係諸記事に, 当書がマルクス没後100年記念事業として, 或は没後100年に関連あるものとして, いずれも論じられている

〔関係記事〕赤旗 (1984.5.28) (金子ハルオ), 日本読書新聞 (1984.4.2)

鷺田小彌太

書解・現代マルクス主義 東京 青弓社 (1984.2.25) ¥2,000

230 <内, 目次 [3-5], 本文 [7-222], あとがき [224-229], 初出一覧 [230]>p 19cm

注——1) 本文のI[Vの内]: マルクス死後百年をめぐる特集雑誌の論調紹介と若干の論評——マルクス主義の危機

2) 上記1)は, 「季報・唯物論研究」(大阪唯物論研究会哲学部会) (10/11) に初出, マルクスの部「雑誌一特集号」参照

〔関係記事〕日本読書新聞 (1984.4.9) (関 曠野)

鷺田小彌太

哲学の構想と現実——マルクスの場合 (白水叢書70) 東京 白水社 (1983.9.25)

¥1,600



280 <内, 目次 [3-7], はじめに [9-10], 本文 [11-277], あとがき [278-280]>p  
19cm

注——1) マルクス死後百年についての文言が「はじめに」に有り

2) マルクス死後百年という一つの節目に本書を送り出す幸運に恵まれた, との文言が「あとがき」に有り

〔関係記事〕日本読書新聞 (1983.9.26), 同 (1983.12.26) (廣松 渉) (高橋洋  
児), 同 (1984.1.30) (高橋順一)

#### 鷺田小彌太

唯物史観の構想——哲学の貧困の時代を抉る 東京 批評社 (1983.1.1) ¥1,500

239 <内, はじめに [3-6], 目次 [7-10], 本文 [11-239]>, 4 <人名および引用著作  
作索引>p 19cm

〔関係記事〕日本読書新聞 (1983.8.15・22), 週刊読書人 (1983.8.8) (廣松 渉)

#### 山口重克

資本論の読み方——宇野弘蔵に学ぶ 東京 有斐閣 (1983.9.25) ¥2,300

14 <内, はしがき——「資本論」の読み方 [1-9], 目次 [10-14]>, 251 <内, 本文  
[1-239], \*付論 [241-250], 初出一覧 [251]>p 19cm

注——1) \*付論: 「歴史と経済学——宇野弘蔵の歴史観」

2) はしがきにマルクス没後百年, ケインズ, シュムペーター生誕百年の  
文言有り

#### 山本哲三

資本論と国家 東京 論創社 (1983.1.20) ¥2,200

4 <まえがき>, [5] <目次>, [1] <凡例>, 274 <内, 本文 [1-271], あとがき  
[272-274]>p 19cm

〔関係記事〕「経済学批判」(13) (小倉利丸), 日本読書新聞 (1983.5.16), 週刊読書  
人 (1983.4.4) (浜田好通), 図書新聞 (1983.2.26) (吉田憲夫), 同  
(1983.8.6)

\* 上記の他に (以下略記述)

1) 1984年5月現在未刊であるが、記念出版に該当するもの

永田広志研究資料集 第5巻： 特集・マルクス没後百年——日本唯物論哲学研究の再検討 永田広志文庫 ¥2,600

注——当書は最初1983年8月刊行の予定であったようであるが（季報・唯物論研究〈大阪唯物論研究会〉誌上の広告による）、遅れて現在印刷中、近刊とのこと、上記誌編集部への教示による

2) 記念出版に該当しないと思われるが、書評等の関係記事が没後百年の文言を含んでいるもの

サミール・アミン (Amin) 著「階級と民族」 山崎カラル訳 新評論 (1983.5)  
¥2,800

〔関係記事〕図書新聞 (1983.8.20) (若森章孝), 他に週刊読書人 (1983.7.18) (湯浅赴男一採録略), 出版ニュース (1983年7月上旬号一採録略)

有賀定彦著「資本主義論序説」 ミネルヴァ書房 (1983.5) ¥2,700  
〔関係記事〕週刊読書人 (1983.8.8) (廣松 渉)

Ch. ビュシ=グリュックスマン (Buci-Glucksmann) 著「グラムシと国家」 大津真作  
訳 合同出版 (1983.6) ¥8,800

〔関係記事〕日本読書新聞 (1983.9.5) (小倉利丸), 同 (1983.12.26) (山内 昶), 図書新聞 (1983.8.13) (山本耕一), 他に週刊読書人 (1983.9.5) (片桐 薫一採録略), 週刊ポスト1 (1983.11.11) (鈴木 正一採録略)

降旗節雄著「解体する宇野学派——Zへの手紙」 論創社 (1983.3) ¥2,000

〔関係記事〕週刊読書人 (1983.7.4) (鎌倉孝夫), 他に日本読書新聞 (1983.6.20) (奥山忠信一採録略), 図書新聞 (1983.5.21) (吉田憲夫一採録略), 同 (1983.8.6)

廣松 渉, 片岡啓治編「マルクス・エンゲルスの革命論」 (マルクス主義革命論史 1)  
紀伊国屋書店 (1983.8) ¥8,000

〔關係記事〕日本読書新聞 (1982.11.29) (良知 力)

ソ連科学アカデミー「国際労働運動史」総編集委員会編「国際労働運動史 I」 国際関係  
研究所訳 協同産業出版部 (1983.1) ¥4,500

注——全8巻の第1回配本

〔關係記事〕日本読書新聞 (1983.6.6) (飛田圭一)

3) 上記 2)と同じ, マルクス経済〔哲〕学関係書一般

服部文男著「マルクス主義の形成」 青木書店 (1984.4.15) ¥3,800

〔關係記事〕赤旗 (1984.7.2) (富沢賢治), 「経済」(243) (中川 弘)

平瀬巳之吉著『『資本論』現代考』 未来社 (1983.10.10) ¥2,400

〔關係記事〕週刊読書人 (1983.12.19) (城座和夫)

平田清明著「経済学批判への方法叙説」 岩波書店 (1982.10.21) ¥4,800

〔關係記事〕エコノミスト (1983.3.8.) (宮崎犀一), 日本読書新聞 (1983.2.7)

(奥山忠信), 週刊読書人 (1983.1.31) (内用 弘)

伊藤 誠, 桜井 毅, 山口重克編「マルクス経済学叢書 1-2」 社会評論社

1) 価値論の新展開 (1983.12.20) ¥2,800

〔關係記事〕日本読書新聞 (1984.3.12) (鷺田小彌太)

2) 利子論の新展開 (1984.3.15) ¥2,800

梯 明秀著「梯明秀経済哲学著作集 第1-2巻」 未来社 (1982.12.15; 1983.9.20)

¥5,000 ¥4,800

注——全5巻の第1-2回配本

〔關係記事〕日本読書新聞 (1983.8.15・22) (高橋洋児)

奥村茂次, 村岡俊之編「マルクス経済学と世界経済——木下悦二先生選暦記念論文集」

有斐閣 (1983.9.25) ¥5,400

〔関係記事〕週刊読書人（1983.12.12）（清水嘉治）

向坂逸郎著「マルクス伝」 社会主義協会出版局（1983.6.18） ￥1,200

注——当書は先に新潮社から出版されたもの

佐藤武男著「マルクス経済学」 学文社（1983.10.15） ￥1,900

ラドスラフ・セルツキー（Selucký）著「社会主義の民生的再生——新しい政治経済システムの展望」 宮鍋 幟，西村可明，久保庭真彰訳 青木書店（1983.9.30） ￥3,200

鈴木 勇著「市場的社会主義とマルクス主義」 学文社（1983.1.5） ￥3,500

山口重克著「競争と商業資本」 岩波書店（1983.2.24） ￥4,200

〔関係記事〕経済学批判（14）（大山 均），日本読書新聞（1983.12.26）（高橋洋児），  
週刊読書人（1983.5.2）（降旗節雄），同（1983.8.8）（野田弘英）（時永  
淑）